

# 地域社会との密接な連携を築こう

～ 地域と共に育むPTA活動をめざして ～

豊田市立古瀬間小学校PTA

## 1 学区および学校の概要

本校は、1875年（明治8年）に開校し、145年を迎える伝統校である。緑に囲まれた自然豊かな地域であり、地域の方々はボランティア意識が高く、地域行事へ進んで参加する方が多い。また、本校が所属する益富中学校区内の五ヶ丘小、五ヶ丘東小とのつながりも強く、相互に連携して各種行事を行っている。

なお、今年度の児童数は352名、PTA会員数は271名である。

## 2 研究のねらい

本校のPTA活動は、地域に愛着をもち、健やかで心豊かな子どもたちを育てるために、会員相互が結束し、子ども・地域・保護者をつなぐ役割を、主体的に担うことを目指している。これを実現するために以下の取り組みを行うことにした。

## 3 研究の実践

### （1）ふれあい講演会

益富校区内の4校で構成される益富地区PTA連絡協議会が主催して、毎年「ふれあい講演会」が開催される。益富中が開校した昭和59年から行われており、3つの小学校が持ち回りで、昨年度は本校が会場校となった。

昨年9月、「親子で作るバルーンアート～天まで届け！ぼくらの夢！～」と題して、本校体育館や教室を会場に開催された。



【永谷さんによる指導】

これは、益富校区内

の絆、親子の絆、地域の方々との絆を深める目的で開催され、校区内から子ども、保護者、地域住民など約250名の参加があり、大盛況となった。

開催にあたり、古瀬間小校区内に在住する永谷さんが代表を務める「キュート21」に講師の依頼をして、親子で楽しめるバルーンアートを行うこととなった。また、益富地域の人気キャラクターである、「くるみん」、「ますみん」も登場して、会を大いに盛り上げてくれた。このように、地域の社会資源を活用することで、地域連携のつながりと重要性を改めて感じる事ができた。



【地域のマスコットも登場】

ちなみに、「くるみん(兄)」は平成24年に誕生。地域で飼育しているゲンジボタルの学名(ルキオラ・クルキアタ)の一部と、地域をくるみ込める存在になってほしいという願いが込められ命名された。また、「ますみん(妹)」は、「くるみん」同様、「ますとみ」の地域みんなに愛されるキャラクターになってくれるようにとの願いから、平成30年に誕生。各種イベントに登場して、地域のPRを行っている。

事前から準備をすすめ、開催前に役員を中心に作り方の研修を受けることで、当日もスムーズに運営することができた。また、会全体の運営はPTAが行い、参加者の募集は学校が行い、ボランティアの募集は地域学校共働本部が行うなど、役割分担が明確であったことも、日頃からの地域連携がうまく機能していた結果だと言えよう。

さらに、益富中学校の生徒にもボランティアとして運営に協力してもらった。こうした子どもたちの姿勢も、子どもたち自身が地域社会の一員であるという意識付けが浸透している結果であり、重要な視点の一つである。

後日行ったアンケートでも、多くの方が親子で楽しむことができたと回答している。また、開催当初は講話が中心の内容であったが、今後は体験型の取り組みが求められていることが分かった。

学校を超えた取り組みは、PTAにとっても、貴重な情報交換の場となっている。また、毎年違うテーマで開催されるため、楽しみにしている子どもたちも多いことが特徴としてあげられる。



【最後は天まで届け！】

## (2) あいさつ運動

地域ボランティアのグリーンレンジャーさん(通称:Gレン)は、登下校の見守り隊である。日々、子どもたちの安全を見守ると同時に、毎月、PTA安全環境部とともに定例会を行うことで、情報交換を行っている。

また、毎月のあいさつ運動にも、役員とともに参加している。年1回の通学路点検ではPTAとともに危険個所の確認を行い、自治区長もメンバーになっている「交通安全推進協議会」で審議して、行政に改善依頼を行っている。



【あいさつ運動】

## 4 成果と今後の課題

本校の学区は、豊かな自然と協力的な人材に恵まれている。コロナ禍の中で、今後様々な活動の見直しが必要となってくるが、PTAとしては、こうした地域の社会資源の活用が進むように、学校と地域との架け橋としての役割を果たすべく、今後も活動を継続していくことが重要であると考えている。